

## 田んぼが教えてくれたこと

千葉市緑区 米澤美紀

息子が通う小学校で田んぼの授業があることを知り、ボランティアとして参加させてもらったのが3年前。その頃は、「子ども達が良い経験をさせてもらえるな」ぐらいの気持ちでした。該当の学年ではなかったこともあり、ボランティアとしての作業もほんの数回の軽い気持ちで参加させてもらっていました。昨年、息子が5年生になったので、私も一年間を通して田植えから稲刈り、脱穀までの各作業を体験しました。最後にありがとうの会で子ども達が炊いてくれたごはんをいただいた時、「ああ、この授業はこういうことを伝えてくれていたのだ」とそれまでの点と点が一本の線につながりました。種をまき、苗を植え、草刈りなどのお世話をする中で命を育むことを学びます。その後、稲刈りをし、そして自分たちでお米を炊いてその命をいただくことで、その育んだ命が私たちの体の一部となるということを実体験として学ぶのです。普段、自然や生き物と触れ合うこともなく、食べるものはスーパーで購入するような自然から切り離された暮らしをしていると、「命は大事なのだ。食べ物は粗末にしてはいけないのだ。」などと頭で分かってはいても、やはりどこか他人事で、粗末にしてしまうことも多いのではないのでしょうか。でも、この授業においては、常にめぐり止むことのない命のつながりを五感で体験することができます。自分が環境や自然の生き物たちとも一体であるということ、肌をもって感じることもできるのです。何でもスピードや効率が求められる今の時代に、一年間かけて行う授業とは、なんとも豊かで実りのあるものかと感動しました。

私はもともと虫や植物などの自然にはそれほど興味はありませんでした。ただ、子どもを産み育て始めた頃から、単に消費するだけの暮らしに疑問を持ち、農的暮らしに憧れるようになりました。また、娘がアトピーだったことから、食べるものや身の回りの環境にも気を配るようになりました。そんな折、「木を植えましょう」（正木高志著）という本を読みました。その中で、「私は環境だ」と書かれていることに大きなショックを受けました。自分とは、飲んだ水や食べた食物、または呼吸した空気などの「自分以外のもの」を体に取り込むことで形成される。つまり、「私＝環境」そのものであるということです。そのことに気づかされた私は、環境を損なうことなく（自分自身を損なうことなく）暮らしたいという思いを強く持つようになりました。そんな暮らし方を模索し、本を読んだりしながら勉強をしているうちに、「肥料や農薬を用いない。耕さず、草も虫も敵としない」という自然農を知り、その考え方に魅きつけられました。そして、子どもたちに田んぼを指導してくださっている金谷さんがそれを実践されているということを知り、ぜひとも勉強させてもらいたいと思うようになりました。

作業をし始めて気づいたのは、生き物たちの存在がとても近く、親しく感じられるということです。虫の声や鳥の声。あちこちで飛び跳ねるカエルやバッタ。多種多様な草花。どれも圧倒的な存在感をもって私を包み込みます。頬に受ける風や、水の流れる音は私を癒してくれます。たくさんの生き物たちの存在が私を励ましてくれているように感じるのです。そうすると、自然の中で生かされていることに対する「ありがとう」という感謝の気持ちが自然と湧きおこり、幸福感に包まれます。そして、またその感じを味わいたいと、田んぼに足が向かいます。本を読むことで頭から入った私ですが、実際に田んぼで作業をすることで、それほど興味のなかった自然やすべての生き物が愛おしく感じられるようになったことに自分でも驚きます。そして、自分が感じたような幸せな体験を、子ども達にもたくさんしてもらいたいと思います。そのために、こういう環境をいつまでも残したいと強く思います。

田んぼに行くたびにいろんな気づきがあります。今朝の作業中には「いのちのお世話をするということとは自分自身を育むことでもあるのだな」と感じながら作業をしていました。田んぼの作業は子育てに共通することがたくさんあると思います。手をかけすぎても、かけなすぎてもいけないこと。稲が育つためには風が重要なように、子どもがしっかりと成長するためには試練が必要であるということ。あせらず、じっと時を待つことも大事だということ。何も語らずとも、私にとって田んぼは学びの場所でもあるのです。

このような奇跡的な場を維持してこられた小山地区の方々やYPPの方々に、改めて深く感謝したいと思います。ありがとうございます。

最後に、風義（かぜよし）さんという方が歌っている「やまずめぐる」という歌を紹介したいと思います。

田んぼにくと、この歌詞が実感できますよ。さあ、あなたもぜひ田んぼへいらしてみませんか？

大地を濡らした雨はやがて  
川となって海へと注いでゆく  
海は雲をつくり 雲は旅をして  
雨となって大地に還ってくる。  
海は雲 雲は雨 雨は川 川は海  
やまずめぐる めぐりやまず やまずめぐる 命の旅  
全ては同じ ひとつのもの

僕は食卓に野菜をはこび、  
野菜は青虫もかじろうとしている  
虫は鳥たちにパクリとやられ  
鳥は君の口に呑み込まれた  
僕は草 草は虫 虫は鳥 鳥は君  
やまずめぐる めぐりやまず やまずめぐる 命の旅  
すべては同じひとつのもの  
やまずめぐる めぐりやまず やまずめぐる 命の旅  
全ては同じひとつのもの あなた僕もひとつの命

## 田んぼのかかし2013



大椎小学校



あすみが丘小学校

### 学校田んぼのかかし（小山）



下大和田 YPP のかかし



# 里山たんけんレポート

## 第 163 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2013 年 8 月 4 日 (日) くもり

今日はまず盛期のカブトムシの観察から始めました。一本のヤナギの樹液に♂4・♀1 とノコギリクワガタのペアが樹液をなめたり休んだりしていました。他の木にも何匹かとクワガタがいたようです。一瞬大きくてオニヤンマと思われたコオニヤンマが水路の上を行ったり来たりしています。と、シオカラトンボの縄張りに入ったのでしょう。身体の小さいシオカラトンボが大きいコオニヤンマに突っかかり追い払ってしまいました。シオカラトンボの気の強い一面を見ました。オニヤンマもパトロールしていました。バッタのなかまもまだ幼体が多いですがツマグロイナゴモドキ、ショウルヨウバッタ、オンブバッタ、ヒメギスなど成虫が見られました。ササキリの幼体はとても可愛く人気を集めました。途中、キジが足元から 2 羽飛び立ち驚かされました。暑いさなかですがコケオトギリ、ダイコンソウ、涼しげなミズタマソウなどの花も見ごろを迎えていました。

(参加者 大人 5 名、高校生 5 名、こども 6 名； 報告：網代春男)

## 第 150 回下大和田 YPP「かかしづくり」(兼、第 7 回米づくり講座)

2013 年 8 月 17 日 (土) 晴れ

夏休みのせい参加者が少なく、子どもたちもわずかとちょっと寂しい感じでしたが、みんなでかかしづくりを楽しみました。最初に今年のコシヒカリの生育状況を調べるモミ数カウントをしました。暑かったので一人 5 株ずつに決めて、穂の数とモミの数を数えました。集計した結果、だいたい例年並みのモミ数であることがわかりました。それからまずは林から竹を切り出し、4 つのグループに分かれてそれぞれが 1 体ずつのかかしを作りました。それぞれ衣装も顔の表情も個性的なかかしができあがり、記念撮影をした後に田んぼに立てました。ちょうど稲穂が垂れ始めたところ、これから田んぼをしっかり見守ってくれることでしょう。

(参加者 大人 11 名、こども 2 名； 報告：高山邦明)



## 第 96 回小山町 YPP「田んぼの草取り」

2013 年 8 月 11 日 (日) 晴れ

千葉市で最高気温 38 度と記録的な猛暑の中での作業になりました。ちょっと動いただけでも汗が噴き出してくるほどで、“野外活動が危険”なレベルだったことから、日陰での草取りを中心にこまめに休憩を取りながら短時間の作業にしました。まず、畦に開いた穴の補修を済ませ、雑草が繁茂しているところを刈りました。今年は暑さのせいで雑草の勢いがすごく、稲の生育に影響を与えているところもあるほどですが、なかなか草取りが追いつきません。人はヘトヘトでしたが、暑さをものともしないで飛び回っているトンボや畦で跳ねている小さなガエルたちの元気さに脱帽でした。

(参加者：大人 6 名； 報告：高山邦明)



## <谷津田・季節のたより>

### 小山町

- 8 月 4 日 ミンミンゼミとツクツクボウシが鳴き始める。谷津の上空を 9 羽ものサシバが帆翔 (高山)。
- 8 月 11 日 クマゼミが鳴く。田んぼでオモダカの花が目立ち始める (高山)。
- 8 月 20 日 ツルボが咲く (高山)。

### 下大和田

- 8 月 2 日 ツクツクボウシ鳴く (初認；網代)
- 8 月 31 日 毎年ヒグラシに寄生しているセミヤドリガの幼虫は見えていたが成虫を初めて見た (網代)。

## イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも)：ちば環境情報センター (TEL&FAX : 043-223-7807 E-mail : hello@ceic.info/)

ご注意：・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。

・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。

・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

### ▼下大和田 YPP 151回「コシヒカリ・農林1号・黒米の稲刈り」(兼第8回米づくり講座)

#### 152回「同・脱穀」(兼第9回米づくり講座)

いよいよ収穫です。最初にコシヒカリ、農林1号、そして古代米の黒米を刈り、脱穀をします。特に脱穀については稲の乾燥具合や天気によって日程が変わる可能性がありますので、当日や前日の天気が悪い場合はご注意ください(このホームページで前日にはお知らせします)。

日時： 稲刈り 2013年9月14日(土) 10~14時 ☆小雨決行

脱穀 2013年9月28日(土) 10~14時 ☆小雨決行

場所： 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合： 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物： 弁当、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物など。

参加費： ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催： ちば環境情報センター 共催： ちば・谷津田フォーラム

### ▼第165回 下大和田 10月の谷津田観察会とごみ拾い

アカトンボの季節です。トンボの互井賢二さんを講師にトンボ中心の観察会をします。

日時： 2013年10月6日(日) 10~12時 ☆小雨決行

場所： 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合： 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(下大和田 YPP に同じ)

持ち物： 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費： 100円(小学生以上、資料代など)

主催： ちば・谷津田フォーラム 共催： ちば環境情報センター

### ▼第14回 下大和田 森の手入れ平日コース

これまで有志で行っていた作業に皆さんのお力添えをお願いします。今回は山林のアズマネザサを刈ります。

日時： 2013年9月25日(水) 10~14時(午前だけの参加も可) ☆小雨決行

場所： 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合： 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(下大和田 YPP に同じ)

持ち物： 弁当、飲み物、軍手、長靴、帽子、敷物など

参加費： 無料

主催： ちば環境情報センター

### ▼第97回 小山町 YPP「コシヒカリ・黒米の稲刈り」

最初に実ったコシヒカリと黒米の稲刈りをします。小さなお子さんでもできますのでお気軽に参加ください。

日時： 2013年9月22日(日) 10:00~12:30、小雨決行

場所： 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物： 飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物など。

参加費： 100円(小学生以上、資料代など)

主催： ちば環境情報センター

編集後記 千葉や茂原で日最高気温の記録を更新するほどの記録的な猛暑に加え、豪雨や竜巻と何とも激しい気候の今年の夏は“30年に1度の異常気象”だと気象庁が発表しました。猛暑の影響で千葉ではカメムシやウンカなどイネの害虫が大量発生しているとニュースが報じていました。今のところ、下大和田や小山では例年と変わった様子がないのは幸いです。これから収穫の季節。台風など気になるところですので、何か異常気象が早く収まって欲しいものです。(高山 邦明)